



伊豆の国市長 望月 良和

伊豆の国市第一ステージ始動

伊豆で一番

輝くまち  
を目指します

伊豆の国市誕生から「市政のかじ取り役」を担ってきた望月市長が二期目就任の抱負を語ります。

未来を担えるまちを

地球温暖化をはじめ世界的な経済不況など、地球規模での深刻な課題に対し、私たちはまず、自らが日々暮らすまちにしっかりと目を向けなければならぬと思います。そうした意味で、今こそやらなければならないことは「未来を担えるまちづくり」であると考えています。

地域活力は

健康と人口にあり

少子高齢社会は、何もしなければ地域力の減退に繋がります。高齢者の健康増進はもとより、引き続き予防医療の観点から検診の受けやすい環境を維持します。また、子育て支援の拡充をすすめ、人口増に挑戦します。

「子どもの元気な声がする」そんなまちづくりを進めます。

伊豆半島の中心

市街地の中心を伊豆箱根根道が走り、国道や県道が交差する本市は、伊豆半島のさまざまな交流の要衝地です。そのため、広域的な視点で見ると、本市はさまざまな分野での拠点機能を備え、伊豆全体の発展をけん引する力を秘めているといえます。

安全、安心、健康のまちづくり

その位置づけを確立します。また本市では、良質な飲料水を確保していますが、まだまだ享受できていない地区もあることから、基本計画に基づきその整備を進めます。

キーワードは「食と農」。

本市誕生以来進めてきました「安全、安心、健康のまちづくり」では、安全な食品は安全な土から生まれ、安全な土は良質な土づくりから始まり、良質な土づくりには良質な堆肥が必要であるということとを基本として展開してきました。

狩野川は地域の歴史文化の源泉

「天城なる 山から出でて 鮎の川」こんな美しい歌が詠まれる狩野川。田方の肥沃な大地はこの狩野川により育まれてきました。市内には、日本の歴史の大変革期に必ず登場する史跡や先人の遺産が数多く残されています。これをより正確に後世に伝えるとともに、大切な観光資源として掘り起こし、

「健康づくりは先ず食にあり」引き続き、安心して食べられる食材を生産し、地産地消を進め、市民だけでなく観光客にも提供することで、観光魅力の向上を図ります。この計画では、環境に配慮して食品残渣を堆肥化することにより、農業振興のみならず、資源循環や経済循環も併せて進めることとしています。

市議会構成

五月一日に市議会臨時会が開催され、議長に土屋源由氏、副議長に萩原眞琴氏が選出されました。また、三常任委員会と議会運営委員会の構成も決まりましたので、お知らせします(敬称略)。

観光建設委員会



松下善洋 (古奈)



土屋紀男 (三福)



秋田清 (山木)



萩原眞琴 (北江間)

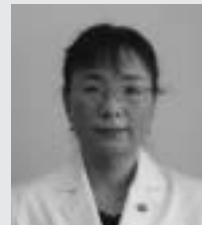
福祉文教委員会



田中正男 (中)



鈴木照久 (原木)



柴田三智子 (山木)



天野佐代里 (南條)



渡邊俊一 (四日町)



水口成男 (小坂)



古屋鋭治 (田京)



三好陽子 (御門)



後藤眞一 (三福)



大沢秀光 (古奈)



板垣紀夫 (大仁)



山下孝志 (四日町)



鳥居松彦 (南條)



水口哲雄 (長岡)



土屋源由 (長岡)

総務委員会

議会運営委員会

秋田清、鳥居松彦、山下孝志、板垣紀夫、松下善洋、大沢秀光、古屋鋭治、三好陽子

は委員長、は副委員長、問合せ 議会事務局 電話 055 948 1417